

事業者等へのヒアリングの実施について(案)

我が国定量型環境ラベルに係る課題を抽出し、今後の在り方と対応方策案の取りまとめに資するため、事業者(エコリーフ又はCFPプログラムに参加していない事業者を含む。)、外部検証員、CFP システム認証審査機関等の関係者約50者からヒアリングを実施する。

1. ヒアリング対象

- (1) 事業者(含む工業会)／35社
- (2) エコリーフ及び CFP プログラムの外部検証員(登録レビューアなど)／10者
- (3) CFP システム認証審査機関／5社

2. ヒアリング項目

(1)－1参加事業者向け

<目的・ターゲット> →“資料2 38 ページ (1)”

- ① 貴社が定量型環境ラベルを取得する目的、ターゲットをどのようにお考えですか？
(例:CSRの一環、業界での優位性PR(訴求ポイントに活用)、販売戦略としての位置付け、市場が求めている、等)
- ② 国内外において、どのような環境情報の発信が有効かつ効果的とお考えですか？
(例:「途上国向けではその国において対応が重要視されている環境情報の発信が有効」等)

<政策的位置づけ> →“資料2 38 ページ (2)”

- ③ 定量型環境ラベルについて、現在ボランティアな取組となっているが、普及のためには、今後、どのような対応が必要と考えますか？
(例:ボランティアな取組ではあるものの、当該取組に対し、消費者から評価されるなど社会的なインセンティブが構築されることが必要等)

<取組上のメリット> →“資料2 39 ページ (6)(7)”

- ④ 定量型環境ラベルを取得したことで、国内外それぞれにおいて、経営・営業上のメリットを感じたことがありますか？
(例:環境配慮企業としての評価が得られた、取引先の調達基準等に合致し、取引に繋がった等)
- ④－1 【メリットを感じたことがある場合】具体的にどのような場面でメリットを感じましたか？
(例:取引先企業のグリーン調達基準に合致、環境意識の高い消費者への販売等)
- ④－2 【メリットを感じたことがない場合】どのようにすれば経営・営業上のメリットにつながると お考えですか？
(例:絶対的な数値(競合他社との比較可能性)、数値に加え、環境配慮の取り組みレベルがわかる表示等)
- ⑤ 定量型環境ラベルを取得、利用される上で特に課題と思われることは何ですか？
(例:コストが高い、審査手続きが複雑、原単位等算定に必要なデータの整備が十分ではない(データが少ない、古い、統一されていない)、認知度が低い、数値の見える化だけでは環境製品として訴求できない、中小企業においては対応負荷が大きい等)
- ⑥ ⑤の課題を解決するためにはどのような対応が必要とお考えですか？
(例:コストを下げる、成功事例を整備し公開する、原単位の整備を進める、カーボン・オフセット、削減貢献などとの一体的な運用等)

<他の制度との関係> →“資料2 38 ページ (3)”

- ⑦ エコマークなど他の環境ラベルを取得、利用されていますか？ 取得、利用している場合、

それらの環境ラベルとの併用で困ったことはありませんか？

(例：特に直接的な効果を求めているわけではないので、問題ない。環境ラベルが氾濫しており、情報の受け手が理解ができていないと感じる等)

<海外への対応> →“資料2 39 ページ (9)”

- ⑧ 海外の環境ラベルを取得されていますか？海外の環境ラベルを取得している場合、国名と制度名、取得の目的は何ですか？
- ⑨ 海外の定量型環境ラベル制度との相互認証を望まれますか？

(1)－2参加していない事業者向け

<目的・ターゲット> →“資料2 38 ページ (1)”

- ① 貴社が定量型環境ラベルを取得しない理由は？
(例：取得のメリットを感じない、関心はあるが費用・事務コストの負担が重い、市場が求めている、等)
- ② 国内外において、どのような環境情報の発信が有効かつ効果的とお考えですか？
(例：〇〇では地球温暖化問題に関心が高いものの定量的な評価よりも定性的で分かりやすい情報発信が重要等)

<政策的位置づけ> →“資料2 38 ページ (2)”

- ③ 定量型環境ラベルについて、貴社が参加されるためには、今後、どのような状況の変化が必要と考えますか？
(例：定量型環境ラベルの取組に対し、消費者から評価されるなど社会的なインセンティブが構築されることが必要、業界として取り組むことが必要等)

<取組上のメリット> →“資料2 39 ページ (6)(7)”

- ④ 定量型環境ラベルを取得していないことで、国内外それぞれにおいて、経営・営業上のデメリットを感じたことがありますか？
(例：取引先の調達基準等に合致しない等)

<他の制度との関係> →“資料2 38 ページ (3)”

- ⑤ エコマークなど他の環境ラベルを取得、利用されていますか？取得、利用している場合、目的は？
(例：グリーン調達対応等、認知度が高く環境に配慮していることをアピールしやすいため等)

<海外への対応> →“資料2 39 ページ (9)”

- ⑥ 海外の環境ラベルを取得されていますか？海外の環境ラベルを取得している場合、国名と制度名、取得の目的は何ですか？
- ⑦ 海外の定量型環境ラベル制度と我が国の定量型環境ラベルの相互認証を望まれますか？

(2)外部検証員向け

(1)－1の参加事業者向けの⑤を中心に顧客対応の中で現行制度についての課題をヒアリングし、その対応方法について意見を求める。

<取組上のメリット> →→ “資料2 39 ページ (6)(7)”

- ① 検証を通して、事業者が費用に対してどのように感じていると思いますか？
(例：算定費用が高い、登録コストが高い等)
- ② ①の課題を解決するためにはどのような対応が必要とお考えですか？
(例：普及を優先してコストを下げる等)
- ③ 算定方法について課題と言われた事がありますか？

(例：原単位等算定に必要なデータの整備が十分ではない(データが少ない、古い、統一されていない)、算定に係る事務負担が過大等)

- ④ ③の課題を解決するためにはどのような対応が必要とお考えですか？

(例：原単位の整備を進める、カーボン・オフセット、削減貢献などとの一体的な運用、中小企業支援策の制定等)

- ⑤ 事業者が定量型環境ラベルを取得する目的は何だと思えますか？

(例：CSRの一環、業界での優位性PR(訴求ポイントに活用)、販売戦略としての位置付け等)

(3) 外部 GFP システム認証審査機関向け

システム認証機関に対しては、(1) - 1の⑧⑨、(2)の①~⑤とに対応する各国制度との関連からその動向と対応方向についての意見を下記にて聴取する。

<海外への対応> → “資料2 39 ページ (9)”

- ① 海外の環境ラベルの動向を事業者から聞かれた事がありますか？聞かれた内容は何でしょうか？

(例：ある国・地域の環境ラベルの動向や対応方法、コンサル費用、相互認証制度の状況)

- ② 日本の環境ラベルの動向を海外の事業者から聞かれたことはありますか？

- ③ 海外の定量型環境ラベル制度との相互認証について、必要性を感じますか？

以上